

令和4年度 第1回 岡崎市防犯活動行動計画策定委員会議事録

1 日時

令和4年6月23日（木）13時30分から

2 場所

岡崎市福祉会館 2階 202号室

3 出席委員

樋野公宏、永田英巳、田口竜也、長坂秀志、秋山佳子、杉原恵美子、小野美菜代、片山鑛一、坂本彩、吉田さりな

4 欠席委員

なし

5 傍聴者

なし

6 事務局

市民安全部長：桑山拓也、防犯交通安全課長：岡田武士、
防犯交通安全課副課長：加藤力、防犯交通安全課係長：天野涼太

【計画策定支援業務受託事業者】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部	研究開発第1部（名古屋）	主任研究員	小森 清志
	公共経営・地域政策部	研究員	土方 孝将
	研究開発第1部（名古屋）	研究員	吉田 夏稀

7 議題

- （1）岡崎市防犯活動行動計画策定について
- （2）国・県の動向について
- （3）犯罪情勢の整理・分析について
- （4）市民意識調査の実施について
- （5）現行計画の評価方法及び第6次計画構成案について

8 議事内容

（1）資料説明

【事務局天野】 資料3に基づき、計画策定の経緯及びスケジュールについて説明
策定にあたって、「都市宣言の実現に向けて子ども・女性・高齢者を犯罪から守る施策を盛り込むこと」「岡崎市市民参加型市政の推進に関する指針

に基づき、積極的に市民参加の機会を設け、市民の意見等を施策へ反映することに努める」「地域が一体となって推進する計画策定の推進を図る」「市の犯罪情勢や都市宣言の実現に向けた新たな目標指標を設定する」ことを策定のポイントとしていきたい旨を説明

【事務局 MURC】 資料4～8に基づき、国県の動向、犯罪情勢の整理分析、市民意識調査、現行計画の評価方法、第6次計画構成案について説明

現状をしっかりと把握・分析して岡崎市特有の計画策定となるように委員の皆様をはじめ、市民の皆様の意見を取り入れて進めていきたい。

今回の委員会では素案を提示する段階になるため、本日は、施策を検討する際に必要な現状分析方法や計画の構成案まで示させていただいておりますので、それぞれの立場も踏まえ御意見をいただきたい。

(2) 意見交換

【永田委員】 1,050 台の防犯カメラが今年度末に設置され、近隣の市と比較しても多く、これにより犯罪が統計的にも減少している。防犯カメラは現在 SD カードタイプ方式を利用しており、事件が発生するとその場に取りに行かなければならないため、オンライン化していただけると良い。

また、犯罪被害者支援条例の設定をお願いしたい。愛知県は犯罪被害者支援協力が4月に施行された。それから、具体的な取組として、犯罪情報が掲載される県のアプリ「愛知ポリス」というものがあるが、犯罪に興味のない方はアプリをインストールしておらず、県民をはじめ岡崎市民に犯罪情報を発信する方法がない。提案になるが、岡崎市のアプリを作成し、アプリ内で地域の消費活性化できるような飲食店の割引クーポンを配布すれば、インストールする人が増え、被災があった時なども使える。地元の活性化にもつながり、犯罪情報も岡崎市民の方への情報発信につながると考える。

【樋野委員長】 防犯カメラのネットワーク化について、アンケート内でも設問がある。ネットワークの一元管理を国が始めている中、また、属性や性別が自動で識別できるカメラも導入され進化しつつある中で、全国でも先駆けて導入している地域もある。そのシステムを市民がどの程度許容できるのか、どのように啓発活動に反映させるのか課題となっている。条例がないと実施できないという事例もあるため、市の方も検討いただきたい。情報をどのように広めていくのかという点でも市民の方からも意見をいただきたい。

【片山委員】 予算の観点から、防犯カメラを導入できない場合に、プロの方は見分けることが可能かもしれないが、ダミーのカメラを導入することで、抑止力にならないか。セコムなどを付けても到着するのに5～10分程度要するため、

その点でも良いのではないか。

また、まちの汚い場所は犯罪が多い傾向にあるため、環境部局とも連携して、対策を立てられないか。まちをきれいにして治安を改善する取り組みをしてはどうか。ブラジルのクリチバの事例で、ごみを指定の場所に持つていくことによって、不揃いな野菜や賞味期限前の野菜を物々交換しゴミを減らすことができた。合わせて、浮いた予算で花を植え、きれいなまちづくりをして犯罪を減らすことができたとのことである。

【樋野委員長】 ダミーカメラは、実際に犯罪が起きた際に映像が撮れないため、被害に遭われた方には良くないこともあり、裁判になる懸念もある。しかし、抑止力にもつなげることはできると考える。「きれいなまちは安全なまち」という観点は、ニューヨークをはじめとして支援している自治体も取り入れているため、率先して対応いただきたい。

【長坂委員】 自主防犯団体が 200 団体を超えており、青パトも 100 団体を超えている。特に、子どもたちの下校時の見守りをしている。昨年度、飲酒運転対策や通学路を一斉点検し、防犯診断の専門家にも協力いただいてできることから手を打った。防犯カメラ設置中の看板も効果があるところとないところがある。

都市宣言を踏まえ、新たな横断幕を製作中であり、活動を着実に進めていきたい。他方で、新たに横断幕を取付けるにしても、効果のある場所に取付けられるよう検討したい。

空き巣や詐欺にあった方は、犯罪をきっかけに引きこもりになってしまうことがあり、包括支援センターの方にサポートしていただきたい。被害に遭わないためにも未然防止が重要で、地域をあげて防犯に取組み、自分たちのまちは自分たちで守る意識が重要である。

【樋野委員長】 地域の特性を活かした計画していくことが重要である。交通事故は本計画の対象外であるが、交通事故も子どもを守る取組として繋がっており、連携していく必要がある。

また、犯罪被害者の支援は必要で、犯罪に合わないための抑止も重要である。

【杉原委員】 少年愛護センターでは、小中校各学校からの被害を挙げていただいて、情報収集をしている。4 月～6 月は痴漢が多く、中高生では女子生徒の被害が多い。犯罪を減らすことを目的とするが、現状を把握して原因や傾向を分かっただけで対策をしないと犯罪を減らせない。関係団体、被害に遭われた関係者が犯罪の傾向を把握・分析して、関係者として見直して対策を取る必要がある。

【樋野委員長】 分析は非常に重要である。外部には出せない情報が多いため、伝え方を考える必要がある。個人情報を守りながら、共有しないといけない情報は発信をする必要がある。特に性犯罪は、実際の数と警察の認知件数に乖離があるため、その乖離を減らしていく必要がある。目標として発生件数を掲げるが、認知件数だけが減らないように留意し、数値目標を減らす必要がある。

【田口委員】 法律を変えるのは行政だけではできない。犯罪者が減って、犯罪が減ると、対策を講じた結果犯罪が減るのは意味が違う。学校で犯罪を起こさないための教育をし、昔のように鍵を掛けなくても犯罪にあわないような世の中にするために抑止力が必要である。

【坂本委員】 教育実習の現場で感じたが、岡崎市の学校では ICT 化が比較的進んでおり、一人一台 iPad が支給されている。子どもたちもアプリに興味を持っており、子どもへの防犯活動としてアプリは有効だと感じた。新しいアプリを作成するのは予算がかかるため、既存のアプリを活用することも良いのではないか。スマートフォンやパソコンから見られる、大人が見つけた「もしかしたら危ない場所」と子どもが見つけた「もしかしたら危ない場所」を示した「もしかマップ」というアプリがある。岡崎市にもピンが立っているため活用を検討してはどうか。首都圏では普及しているが、岡崎市では普及していないため、IT を利用し現代の子どもに合わせた防犯の取組、意識醸成をしていけると良い。地域によって子どもの多い、少ないがあるが、防犯マップを使いながらの意識向上ができれば良い。

自身が子どもだったときは、防犯よりも交通安全に関する声掛けが多かったが、今も交通安全に重点を置いているため防犯に関する意識を高める必要がある。学校の先生方の指導や付き添いながらの下校見守りも引き続き重要ではあるが、働き方改革との兼ね合いもあるため、ICT の活用とセットで考える必要であると思う。

【樋野委員長】 教育現場では、時代に合わせた教育がされている。既存の ICT を活用しながら防犯意識を高めることは有効だと思う。

【秋山委員】 振り込め詐欺への金融機関の取組として、お客様の状況に合わせたチェックシートを作成している。少しでも不安があれば、銀行の対策室や警察に連絡するような体制を取っている。そのような情報を発信したい。

私自身、高校生と小学生の子どもがおり、母親としての意見を言いたい。子どもの意見を聞き、学習しながら、防犯カメラや街灯を設置できると良い。市内でも下校時の見守りが地域によって異なるため、どの地域でも見守りがなされていると良い。コロナ渦の影響で、マスクをしている人は良

い人だというイメージを持っているため、改めて、何が危ないかをしっかりと教える必要がある。

【樋野委員長】 振り込め詐欺については市役所内では福祉部局との連携も必要である。子どもの意見を軽視せずに、防犯活動の質の向上につなげていただきたい。

【小野委員】 悪いことを企む人は集まるので、犯罪者が寄ってこないように、防犯ブザーを持たせたり、明るくなるチョッキを着せたりしている。集まる場所が結構決まっているため、犯罪を防止するためにも集まりやすい場所を親同士で共有したい。

【樋野委員長】 小学校に入ったばかりの子どもは防犯ブザーを持っていることが多いが、中学生以上のための取組も考える必要がある。

【吉田委員】 以前は交通量が少なかった場所も地方創生などで活性化が進み、車通りが増え、時代に合った防犯対策を進める必要がある。市内の地域差も加味した対策を検討いただきたい。

【樋野委員長】 今回初めてウェブでのアンケートを実施することである。紙ベースよりも回答する方も多いため、回答しやすいように委員の皆様も試していただき、御意見あれば事務局まで連絡されたい。

【事務局・市】 アンケートの発送期限があるため、アンケートに対する意見については、今日明日中にご意見をお願いしたい。

【事務局・市】 本日は、長時間にわたり、ご審議いただきまして、誠に有難うございました。委員の皆様からいただいた貴重な御意見を踏まえ、今年度末の計画策定に向け進めていきたい。

今後は、アンケート調査や、犯罪状況の分析、それから、防犯に関する関係者の皆様とのヒアリングを実施しまして、素案を作成していく段階となる。皆様にも、必要に応じてご意見をお伺いする場合がございますが、その際は、御協力いただきたい。

また、本委員会の場合、以外でも、計画の策定について、何か御意見やご質問等があれば事務局までお伝えいただきたい。

実行力のある計画となりますよう、皆様の知見や、御意見をお聞きしながら、進めてまいりますので、引き続き、御理解、御協力のほど、よろしくをお願いしたい。本日は、誠にありがとうございました。